

映画『RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ』 (富山県、富山地方鉄道)

会誌編集専門委員会

概要

2010年公開の鉄道にまつわる人々の人生を綴った映画『RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語』に続く第2作が、翌年公開された『RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ』だ。物語は富山を舞台に、第2の人生を目前にした一組の夫婦の考え方の相違、葛藤する二人の様子、そしてその後の姿を描いている。

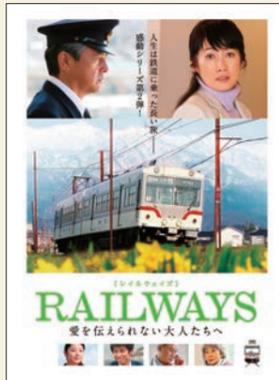
運転士として42年勤めた富山地方鉄道を1カ月余りで定年退職することになっている滝島徹(三浦友和)は、再雇用の話を断り、これからの人生は妻・佐和子(余貴美子)のためにと考えていた矢先、結婚を機に辞めた「看護師の仕事を再開する」と宣言した佐和子ともめてしまう。そして、自分のことを何も理解してくれない徹に離婚を突き付け佐和子は家を出る。

ある日、終末医療の看護師となった佐和子が担当している信子が行方不明になる。信子は落雷で送電がストップした徹の運転する列車に乗っていたのだが、そんなときに体調が悪化する。連絡を受けた佐和子が駆けつけ、看護師としての手当てを施す。徹は佐和子の看護師として働く懸命な姿を見て自分が間違っていたことを知る。しばらくして、運転士としての最後の日、佐和子をその列車に乗せて、改めて終着駅でプロポーズするが、佐和子の返事は…。孫も生まれ、鉄道好きであることを自覚した徹は運転士として復帰し、美しい景色の中、また列車を走らせる。エンドロールに流れる主題歌『夜明けの雲』はユーミンが書き下ろした。

ちなみに2018年には、ディーゼルカーを運転する女性運転士を主人公に、肥薩おれんじ鉄道を舞台にした第3作『かぞくいろ RAILWAYS わたしたちの出発』が公開された。

富山地方鉄道

地元では「**ちてつ**」と呼ばれ親しまれている富山地方鉄道は、1930年に創設された富山県東部を中心とした鉄道・バス路線を運営する会社である。富山市の中心部で運行している4路線、総延長7.6kmの軌道線(路面電車)と、富山市街地から立山山麓や宇奈月温泉、黒部峡谷などの観光地を結ぶ4路線、総延長93.2kmの鉄道線がある。



DVD表紙



電鉄富山駅



岩瀬駅付近のセントラム(旧富山ライトレール線の車両)



南富山駅

沿線には日本の原風景と思えるような美しい景色が広がっている。また「立山黒部アルペンルート」の富山側のターミナルともなっており、観光はもちろん、沿線に住む人々の通勤や通学の手段としても活用されている。



松川磯部堤



線路敷の斜面

映画の舞台

・電鉄富山駅

物語の冒頭に登場するターミナル駅。今も映画のタイトルのパネルが掛かり、赤いラインが特徴の元西武鉄道の「レッドアロー」や、橙と緑のツートンカラーの「かぼちゃ電車」などの車両が見られる。

・旧富山ライトレール

佐和子が信子の家を訪れるシーンで乗車していた電車。2006年に富山と岩瀬浜を結ぶJR富山港線を第3セクターが引き継ぎ路面電車化した。2020年の富山駅南北接続事業の際、富山地方鉄道株式会社に吸収合併された。

・南富山駅

徹が自転車通勤している運転士の詰所として登場。富山地方鉄道軌道線の拠点で車両区や運転研修センターなどが設置されている。

・松川磯部堤

富山縣護國神社近くにある徹の自転車通勤や夫婦が満開の桜の下を歩くシーンで登場。電停「諏訪川原」から南西へ約300mの桜の名所の一つ。

・線路敷の斜面

アクシデントで停車した山間部で救急車が入れず、徹が協力して佐和子が崖をよじ登るシーンで登場。愛本駅から西の下立駅方面へ徒歩約10分の場所と言われている。

・片貝川橋梁

立山連峰をバックに橋を渡る電車。経田駅から北へ約1kmにあり、映画のポスターにも使われている。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1) DVD『RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ』松竹株式会社 2011年
- 2) 「富山地方鉄道株式会社 ホームページ」
(<https://www.chitetsu.co.jp/>)
- 3) 「映画ウォッチ ホームページ」
(<https://eiga-watch.com/railways-2/>)
- 4) 「ニッポン旅マガジン」一般社団法人プレスマンユニオン
(<https://tabi-mag.jp/ikujibridge/>)

<写真提供>

- P34下左、P34下右、P35上右、P35中写真：塚本敏行
P34下中写真：惣慶裕幸
P35上左写真：高見元久
P35下写真：一般社団法人 黒部・宇奈月温泉観光局



片貝川橋梁

現地を訪れるなら

紹介した以外にも、映画には富山の観光名所や美しい風景が多数登場する。しかし、映画には登場しない番外編として、生地駅から南西約2kmの黒部漁港に架かる1982年に完成した橋長約38mの生地中橋いくしなばしがお勧め。漁港に漁船が出入りできるようにした、日本では珍しい片持ち式旋回可動橋だ。写真は旋回中の生地中橋。

